



3月はじめ、私はネパールを訪問した。新右翼団体・一水会の木村三光代表と二人での訪問だった。

おそらく読者の方はネパールと聞いても、エベレストくらいしか印象がないかもしれない。ネパールは今、政治が大混乱中だ。2008年に王制が廃止になつてから、政治が混沌としている。いまだに憲法もなく、議会も召集されない。

言つたように、革命を起して王制を転覆させたマオイストは暴力装置と言える何万人もの若者集団を持つていてと言われている。ただし、昨年には暴力放棄宣言を出したので、今は手荒なことはいないのだらう。

水会の木村さんはマオイストの幹部と知り合いた。私がネパールを訪問した理由は、荒唐無稽に聞こえるだろうが、マオイストとマルクス・レーニン主義派や他の野党との仲を取り持ち、憲法を制定し国

混乱中のネパール訪問

与野党とも次の選挙に自信

今、マオイストは少数極右政党と連立政権を組んでいるが、その前は共産党マルクス・レーニン主義派と連立していた。実は、私はマルクス・レーニン主義派に属する元首相・ネパール氏と長年の友人であり、一

滞在中、マオイストの現在の序列一位の最高幹部プラチャンダ氏と会見し、また、ネパール元首相とも会見し、こちらの意向を伝えた。

訪問したときは、次の総選挙のための選挙管理内閣をつくるために、政党内で誰を首相にするかでもめていた。結局は最高裁判所の判事を選挙管理のための首相に任命し、選挙は6月に実施することになったようだ。

与野党も選挙には自信を見せていた。さて、どうなるのか。

(石井 至)

いしい・いたる 石井兄弟社社長、東京都在住